

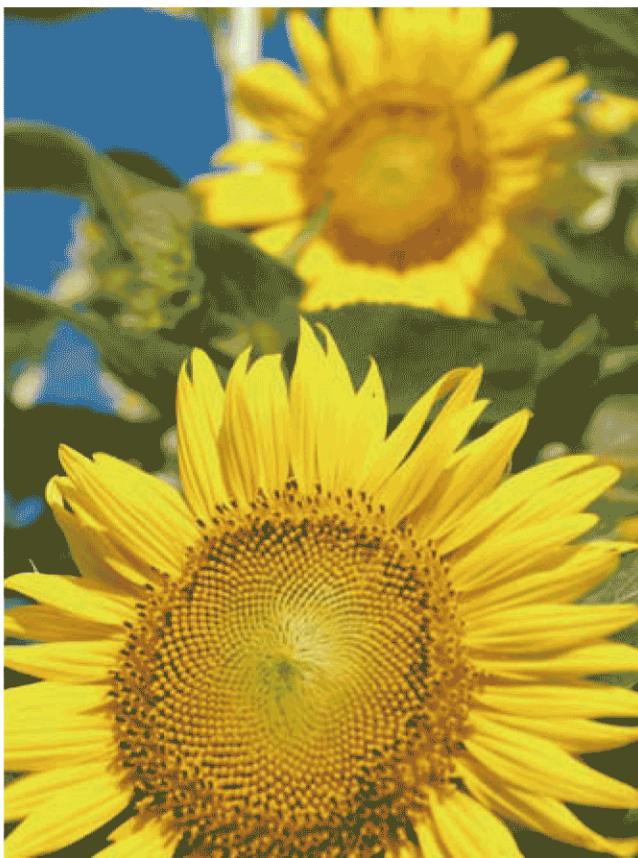
124号
Summer
2013

まごころケアシステム協会
第21回全国大会 in ふくしま



全国まごころケアネット





ひまわり

CONTENTS

卷頭言 死ぬ前にしたいこと(1、2、3、) 1

特別寄稿 癡僧の癡話ちそうのちわ 2~3

第21回全国大会 in ふくしま(講演会) 4~5

「いま、いのち(命)そして希望」の講演で感じたこと 6

第21回全国大会 in ふくしま(分科会) 7~12

NPO法人屋島やすらぎ設立10周年記念講演
「3・11東日本大震災に学ぶこと」 13~15

事務局通信 16

死ぬ前にしたいこと(1, 2, 3,)



特定非営利活動法人
日本ケアシステム協会
会長 兼間 道子



- 1、「ありがとう」、「感謝します」、「素敵です」、「好きです」、「愛しています」人との交わりの中でポジティブに表現したい。これまで言動していない人にとっては今更恥ずかしいという気持ちが先立ってなかなか言えない。タイミングを見計らっていう訓練をしておくのが得策。これらの言葉をいわない今まで死ぬのは如何だろう。相手に対する思いやりの「心」を積極的に用いたい。「ありがとう」を言い足りなかった人生は、悔いを残すものになるだろう。感謝の心を表す「ありがとう」は、言われた人も、言う人も幸福にしてくれる魔法の言葉だと思う。だから死ぬ前にできるだけ連発しておきたい。
- 2、健康を大切にしたい。人間ドックで検査しないさいと促された時「大丈夫」といわず素直に応じて受診したい。「もう少し早く検査をしておけば、こんなことにはならなかったのに」という悔いが以外と多いらしい。
- 3、体力が落ちると移動すらままならないことが予測される。会いたい人に会っておこう。老いは徐々に進行し先延ばししているうちに遠出できなくなってしまう。いつかはと思っているうちに日が過ぎて旅も難しくなる、会いたいあの人に会っておこう。

誰かを恨んだりうらやんだり、怒ったり泣いたりして、あれこれと心を惑わせた日々はなんだったのだろう。すべての事象は、「死」に比べれば取るに足らないのだと気付く時期がやがて到来すると、予測はできるけれど、いまは一喜一憂している愚かな最中なのではないだろうか。

特別寄稿

ち そ う ち わ 癡僧の癡話



クニイ カズユキ
國井 一之さん

【その二】ホリエモンに学ぶ

「全てお金で替（買）る」豪語のホリエモン、刑期を終えて

ムシヨ帰り。人相一変。栄養学に支えられた食事が本来の顔を出現させたのだろう。考えさせられることである。

ホリエモンは「刑務所に行かないで済む『こと』を」買えないかった。日本国は売らなかつた。このことは是非を癡僧は考えこんで居る。

お盆の時「捺印願えないでしょか」と『墓参りに代参したことと証明する書類』への捺印を願れた。墓参代理の依頼主Aさんは勤務を休むわけには行かぬ、そうである。

墓参を金で買ったことになる。捺印しながら「来年の墓参も代行かな。無縁墓になるのは遠くないだろう」つぶやいていた。

親に後押されている感覚は売買出来るものなのか。

TPP参加は『日本が売れないものをはつきりさせよ』と、刃を突き付けておることだと、理解している

人相一変、多分本来の顔にもどつたホリエモンを見てこんなことを思った。

【その二】溜めるな、ためるな

生きるということは溜まるところ。癡僧、来年八十歳。とつくの昔、賞味期限切れ。馬齢溜込み八十八歳。

溜めれば良いと言うものではない。むしろ忌避すべきことだとは仏事で使用する『木魚』が教えている。

『木魚』の『魚』と『余る』の『余』は中国語では同発音。木魚を叩くのは『溜めるな。吐

《現職》
佳木斯大学国際交流中心顧問
宝珠山・慈徳寺住職（曹洞宗）

《略歴》
昭和9年生（寒河江市）生まれ
山形大学教育学部卒業
山形県教育委員会社会教育課成人教育主査
總持寺祖院安居
羽陽学園短期大学助教授
中国・佳木斯大学名誉教授
中国・上海市甘泉中学専家
中国・天津市大明学校専家
中国・福建省、南平高等師範専門大学専家

特別寄稿「癡僧の癡話」



一之

忘れぬこと
忘れぬかぎり生きている
亡くなつた方を思い出す
このこと自体

何かが残つてゐるから
何か・とは・魂

き出せ』なのだと思う。

悩み溜込みノイローゼ
お金溜込み、遺産相続兄弟喧嘩
物を溜込み、ゴミ屋敷
カロリー溜込み、メタボの肥満
ボクボク木魚叩いて、『出せ出
せ、出して軽くて幸福道』。
溜込んで初めて水力発電が可能
になるも現実。

【その三】法事・葬式 つて?

家族葬、直葬を癡僧は問題視
している。
故人の善行を偲び、慕い求め
ることを追善と言う。

大事な大事な逝去のあの方に
ご馳走などを供え、祭ることを
供養と言う。

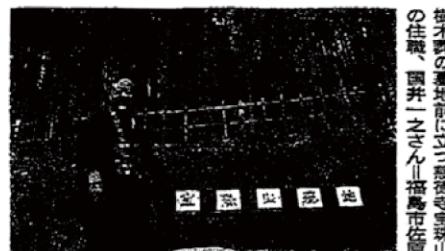
法事、葬式には次の三つが伴
うものである。

- ①故人の生き方を偲びかえし、それを梃の起点として自分たちの生き方を再構築する。
- ②故人と繋がる方々との絆を確認する。
- ③子供は親の背中を見て育つ。お供えをし、祭る大人に成長する。祭られて祭られる故人はニコリと笑う。

地球上に人類、八十億。結婚相手は八十億分の一の確立で成

墓石の代わりに低木植える 「樹木葬」の墓地完成

福島の慈徳寺、県内初



墓石の代わりにツツジなどの低木を植える「樹木葬」の墓地が福島市佐原の慈徳寺に完成。魂を入れる供養が19日に行われた。核家族化が進み墓の管理が難しくなるなか、樹木葬は頻繁に手入れする必要がない新たな埋葬方法として広がってきた。慈徳寺によると県内では初めてで、全国で11番目という。

慈徳寺の樹木葬の墓地は、3,700平方メートルの穏やかな斜面に設けた。一人あたり直径2メートルの円形の土地を確保し、85区画である。まだ実際には埋葬されていないが十件余りの依頼があるという。植える木はツツジ、サツキなど約十種類の花木から選べるようにしている。

管理料は15万円で、1回払えばいい。これと別に永代墓地使用料が50万円かかる。

慈徳寺の住職、国井一之さん(75)は「亡くなった人と子孫のきずなが薄まつた今、お寺が故人とふるさとのきずなを保つ役を買ってでようと思った」と話す。

この日の供養には約40人が参列した。福島市に住む看護婦の女性(45)は、5年ほど前から父親に「自分の墓は樹木葬にしてほしい」と言われるようになり、樹木葬について勉強中という。

「形に執着せず、離れていても思い続けるという故人のしのび方は現代のスタイルに合うと思う」一方で、「墓石という形で存在した方が子どもたちに死とは何かを継承しやすい気もする。悩みどころですね」と話していた。

(以上、朝日新聞報道)

立したもの。奇跡も奇跡。超奇跡。千年に一度の東日本大震災と言うが小さい小さい。ご先祖様との関係も超奇跡。それを大事にして生きなくてどうして幸せになれると言うのだろう。死の最前線に辿り着いている者の『癡話』。

※癡(ち・痴)は、仏教が教える煩惱のひとつ。別名を愚癡(ぐち、愚痴)、我癡(まちは無明ともいう)。万の事物の理にくらき心をさす。

日本ケアシステム協会 第21回全国大会inふくしま

司会

杉林 千太子

主催者挨拶

NPO法人日本ケアシステム協会
理事長 兼間 道子

来賓 祝辞

参議院議院 金子 恵美様
南林町内会会长 青木 恵造様

新センター認定書授与

まごころケア仙台はなまる広場

大会実行委員会挨拶

NPO法人まごころケアサービス国見センター
副理事長 紺野 徹



大石先生と会長

記念講演会

テーマ「いま、いのち(命)そして希望」 講師 大石邦子先生(エッセイスト)

運命の一瞬

二十一歳まで、私も全く健康で、人並みの未来を夢見ていました。でもある日突然、私の人生は一変しました。通勤で乗ったバスが、横町から飛び出してきた車を避けようと急ブレーキをかけ、その時どこをどう打ちつけたものか、私は意識を失いました。病院で気づいた時には、もう針の痛みも、お湯の温かさも感じない体になってしまっていました。衝撃にとどめをさしたのは、排泄の機能もまた麻痺していました。一日六回、細いゴム管を膀胱に差し込んでおしっこを採らなければ、生きていけない体だと知らされたのです。私はもう人間でなくなったような思いがしました。

魂を揺さぶられた無償の友情

私が何度も重態に陥った時でした。意識混濁状態の一夏を乗り越えた時、私の頭は男の子のように坊主頭になっていました。長い間の熱のため、僅かに体を動かすだけで鼻から口から出血し、体重も三十キロを割り、窓の光さえまぶしくなっていました。薄暗い部屋にいるこんな患者は、誰が見ても気持ち悪かったろうと思います。お見舞いの人たちが病室に入って来ると、一様にハッと立ちすぐむ様子が私には分かりました。

ところがある土曜日、ちょうどお昼頃にやって来た一人の友達は、私の顔を見ても驚かない。彼女は、「クーチャン、輸血や点滴やったってダメなのよ。口から入れる方がずっと力になるんだから。一口でいいから食べてみ」と言って、重湯を私の唇に何度も押し当てたのです。そうこうするうちに、彼女は突然、私の唇に触れていた重湯を自分で食べ、そして自分で食べたスプーンでまた重湯をすくい、私の唇に押し当てたのです。私はこの時ほど、友情の有り難さを、魂の奥深くから揺さぶられるような思いで感じたことはありません。

そうしてまた、大切な婚期を遅らせてまで、同級生のために何とかしようと気遣ってくれた別の友達。「私はクーチャンが退院するまでは結婚しない」と。すべてを失い、廃人同様になってしまった人間に対する無償の友情。私はこの世の中にこれ以上大きな愛があるだろうかと思いました。私はこうした友達に支えられながら、何とか人生の冬をくぐり抜けることが出来たのです。

そして今ひとつ、私の心を強くとらえているのは、共に長い闘病生活を送ってきた人たちです。会津若松市の病院に七年半、リハビリのために静岡県熱海に五年間と、私には十二年六ヶ月の療養期間がありました。生まれてから中学生になるぐらいまで、ずっと寝ていたことになります。その間、私はたくさんの若い人たちとの別れを体験

してきました。それはどんなに生きたいと願っても生きられなかつた人たちです。彼らのことを思う時、今こうして生かされている私たちが、生命を曇らすような生き方だけはしてはいけない。そんなふうに思います。

私は物を書くなんてことをしていますが、その私の本をお金をして買って下さる方がいるということ、どう感謝してよいかわかりません。生きてみなければ分からぬことって、あるんだなあと思います。だから、学校などでお話をさせていただく時も「十五歳ぐらいで自分の人生の結論、出さないで」と、子どもたちに祈りにも似た気持ちで話します。苦しい時、どうしてよいか分からぬような中にも、神様はきっと逃げ道を用意して下さると聖書にも書いてある。だから、子どもたちには「逃げないで、この苦しみを一つ乗り越えると、それは必ず大きな力になるから。その苦しみがきっとあなたを育て、輝かせてくれるから」と、そんな話をします。



死んでから後まで支えてくれる母

こんな大そうなことを言いながら、今なお、私は自分の心がコントロール出来なくなることがあります。年老いた母に八つ当たりして、母を悲しませたことが何度もありました。母は凄まじい執念で私のために生き続けてくれました。母が生きているうちにこの深い愛に気づいていたなら、もっと優しい娘であつただろうに。失つてから初めて気づいたことが、あまりにも多過ぎました。健康であることの凄さ、歩けること、手が動くこと、冷たい物を触れば冷たいと感じる知覚を持つこと、一人でおしっこが出来ること。これらの大きな幸せを、私は失つてみると気づかないで生きてきた。ですから、失う前の人伝えたい。親も生命も健康も友情も、そしてこの世の平和も、失つてしまつてからでは遅いんだということを。

去年の冬、会津は大雪でした。私は母に会いたくて会いたくて、夢でもいいから母に会いたいと思いました。外を見ると、二メートルぐらいの雪の上をさらに雪が吹きすさびます。もう疲れた、限界と思いました。その夜、母がいたんです。袖のお対の着物を着て、膝にちょこんとカーキ色のリュックサックを抱いて。私はもう嬉しくて嬉しくて、駆け寄りました。膝上の小さなリュックサックを私が持とうとした瞬間、それは鉛の塊のように重く、私は前につんのめりそうになりました。ようやくリュックを持ち上げて振り返った時、母は私の一番好きな笑顔をして立っていました。たつそれだけの夢でした。でも私は母に会えたということで、ああまた一年ぐらい頑張れるかなあと思ったのです。親というのは死んでからでも、子どもを支えるものなんですね。私の所にやって来る傷ついた子どもたち、闇を抱えた子どもたちを前にする時、私は私の悲しみのために泣いてくれた母を思い出します。障害があつてもなくとも、人生には幾たびか自分の心を分かってくれる人が欲しい、そう思う時があります。不幸にして親が心を注ぐことが出来ないなら、周りの大人が、地域の人たちが子どもたちを守つていかなければと思います。まだ身動きのとれなかつた頃、私にはそうした心を分かってくれる人との出会いがありました。

悲しみを看護師さんは共に背負って

桜の季節でした。会津には鶴ヶ城というお城があり、夜桜の季節になるとぼんぼりが灯つて桜見物の人で賑わいます。私はもう自分の足では歩けないだらうことを察していました。私なんか生きていても生きていなくても、世の中少しも変わりなく動いていく、そんな落ちこぼれ感にさいなまれて寝ている私の下には、のどかな夜桜見物の人の足音。そんなある夜でした。色々考えているうちに一気に頭に血が上つて、何がなんだか分からなくなってしまったのです。私はあらん限りの大声で泣き叫び、手当たり次第に物を投げつけて大暴れをしました。深夜のことでしたから、その物音は病棟中に響いたと思います。看護師さんが飛んできて「どうしたの、クーチャン」と言ったきり、茫然と立ちすくんでいます。その看護師さん目がけても物を投げつけます。投げつける物がなくなると、看護師さんの着ていたカーディガンを引っ張ったり、叩いたりして泣き叫んだのですが、彼女は何も言わ

ない。ただじつと私を見つめているだけなのです。どうして怒らないんだと思います。そのうちに私はもう精も根も尽き果てて、声も涙も出なくなってしまいました。そんな私を見届けるように看護師さんはおもむろに床に膝をつくと、私の頭を抱き寄せるようにして涙を拭いてくれました。その時です。「ちょっとだけ、桜を観てこようか」。それは全く思いがけない言葉でした。看護師さんは私自身も気づかない心の向こうを見通すようにそう言うと、ヨレヨレになったカーディガンを私に着せ、私を背負つて真夜中の細い階段を下りていってくれたのです。私はその看護師さんの背中の温かさを、今も忘れていません



ん。ああどうしてあんな馬鹿なことをしたんだろう。看護師さんの背中の温かさが、私にそう思わせたのです。青春時代を病み、障害を背負って生きていかなければならない私のこの悲しみ、空しさを、この看護師さんは共に背負ってくれたのです。私の心を分かってくれる人がいる。そう思えることが、その後生きていく上でどれほど大きな力になったか分かりません。一人の人間として本当に大事にされていると実感する時、人はきっと変わっていきます。

私は神様にお目にかかったことはありません。でも神様は絶望の中にあった私に、父の姿、母の姿、友達、看護師さんの姿を通して、頑張れと、生命ある限り生き通さなければいけないのだと、言い続けて下さったような気がしてならないのです。これからも、あの力なく首垂れる、私たちのために十字架にかかる下さったイエス様に常に支えられているということを信じて、生きて行きたいと思っています。

(大石邦子さん講演002より引用)

「いま、いのち(命)そして希望」 の講演で感じたこと

斎藤 力ツ

“お母さん 私を産んでくれてありがとう”

やや高揚した頬、輝いている眼差し、力強い透る声が会場に響きわたり出席者は皆大石先生の一言一言に心うまれながら聴き入っていた。

次々と体を蝕む病と闘いながら、心も体も強く生きぬいていることがしっかりと伝わってくる。

普通に恋愛をし、結婚を考え、楽しい人生を送りたいと夢見ていた娘時代、突然襲った不幸な事故は家族の生活にまで影響を及ぼした。

「幸せな人生って何?」「幸せに生きる事ってどんなこと」「悔いのない人生を送る事ができるだろうか」先生に不安は次々と襲っていった。

先生の生きざまをここまで公開して良いのだろうかと思いながら、でも話してくれてありがとうと感じた人は沢山いたのではないかと思う。

母親は出産の苦痛に耐えながらお産する、その時は子どもの人生に幸あれと願いながら頑張るのである。沢山の人達に見守られ成長していくのが当たり前であり、たとえ母親が子どもの幸せを言葉や態度で現すことが無くても、大きな愛で見守ってくれるもの。先生の母様はそうであったと思う。予期せぬ突然の不幸は「なんで私が」と、自分を責めてしまう。

入院生活が長期となり母と娘の信頼関係まで変えてしまった。寝返りもままならない娘にどこまで関わることが出来ただろうか、娘はもっと私に手をかけてと望み、母娘の葛藤が生じた。母の立場も考えず、思いがかなわぬ事で母を恨み、自暴自棄となり自殺も考えた。

このような現状で、生きる事を捨てたいと思うことはよくあること。

しかし先生はここで生まれ変わったのである。家族の中の自分の立場を考え悩み続けた日々、この不幸な出来事をしっかり受け止め、人生のパートナーとして強く生きることを考えた。

「不幸」を「幸せ」に置き換え人生を生きぬくという思いが先生の人格形成の大きなエネルギー源となったと思う。今も普通の人では乗り越えられない状態を乗り越え続けている。さまざまな体験から学習能力を高め、また力強い勇気と精神力、そして実行力が多くの人達に感動を与え続けている。

「不可能」を「可能」とする努力とすばらしい人間関係を築いていることが車いすの海外旅行「アメリカ大陸横断」まで成し遂げている。「成せば成る」の精神の成果もあり人生を豊かに生きぬいている。

障害を持つ事は「弱者」と思いがちであるが、それを乗り越えてしまえばより強き者となり尊敬される立場になっている。

この講演会の出席者の中には、さまざまな悩みを抱えている人もいると思う。その人達に強く生きる勇気を持って、今後の生き方に役立ててほしいと願っているように感じた。



第1分科会 高齢者、障がい者の地域包括支援体制づくり

司会 佐藤寿徳

報告者 福井恵子氏、内池啓子氏

内池啓子氏（まごころ居宅介護支援事業所所長）**まごころサービス福島センターについて**

平成4年4月に設立。高齢者の生活援助（食事、入浴、外出介助配食サービス等）
介護保険、助け合い事業。住み慣れた地域の中で安心して暮らせるために地域
との繋がり、助け合い。隣近所同士の声かけ、支援。町内会等の地域活動への
参加。

**福井恵子氏（NPO法人認知症予防ネット運営）****幸せな長寿社会を目指して**

認知症進行のくいとめ、スリーA方式

Aあかるく Aあたまを使って Aあきらめない

認知症予防の三本柱 認知症予防教室週に1回、同じスタッフ、同じ曜日、同じ時間に5ヵ月間行う。

参加者からの声

- 障がい者の中には親にも障害があり困っている人がたくさんいる。
- 認知症はさびしい病→2,3時間一緒にいるだけでも落ち着く。
- 物とられ妄想→一緒に探し、本人に見つけてもらう。
- 要支援の利用者さんに対する今後の対応についてもっと知りたい。
- スリーA方式について初めて知りました。ぜひ取り入れたい課題ばかりだと思いました。
- ヘルパーと利用者との関わりだけでなく、地域との繋がり、隣近所の協力も大切だと感じました。

第2分科会 多世代交流・地域の居場所づくりを広めるために

場所 高湯の里・子育て支援部門事務局（第2分科会会場）

1. いま、私たちをとりまく社会とは

- (1) 国家財政のひっ迫
- (2) 少子・高齢化
- (3) 市民ニーズの個別多様化

**2. コミュニティをどう構築できるか・するか守るべき市民の原理**

- (1) 自宅で安心して最期まで住める優しい地域社会づくり
- (2) 命と尊厳を大切に
- (3) インフォーマルサービスの充実
- (4) インフォーマルサービスとの連携

3. 自主的な社会福祉をみんなで目指す

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| (1) 食事・移動サービスなどとの連携 | (2) いまある助け合いの新しいかたち |
| (3) コミュニティ・ビジネスも視野に入れて | (4) 多世代の居場所をセットで |
| (5) 時間も拠点も人もシェアリングするという考え方 | |
- 1 団体だけで完結しない、ネットワーク型解決対応
⇒インフォーマル市民活動支援センター（地域福祉民間センター）を地域包括支援センターの数だけ

4. 地域診断・組織診断・自己診断

- (1) 地域診断 地域の中に
 - ①あるのも → どう生かすか
 - ②たりないもの → 何で補充するか
 - ③あったらいいもの → どうやって生み出すか

- ④疑問を持っている人 → どの程度の疑問か、どのくらいいるか
- ⑤困っている人 → どう困っているか
- ⑥何かしたい人 → 何をしたいか
- ⑦どんな地域社会にしたいのか 3年後、5年後、10年後
- ⑧そのために、いま、何をすべきか

(2) 組織診断

- ①組織の強みは何か
- ②組織の弱みは何か
- ③強みを活かし、弱みを補完するためには何が必要か

(3) 自分診断

- ①自分の強み（得意なこと）、弱み（苦手なこと）の洗い出し
- ②地域社会で実現したい夢は何か
- ③NPOで、自分が取り組みたいことは何か
- ④マネジメント（人、モノ、金、情報面）にどう対応したいか

地域の人達が繋がっていく事。その場所に来なくても、皆が安否を気遣える関係。

そして、場所を提供することが目的ではなく役割と出番を作る事が大切の学ぶ。

又、その土地ならではという、それぞれの地域性を生かしながら、色々な形で実行している実例をお聞きし大変参考になった。

「自主的な社会福祉をみんなで目指す」と、言うところでは、1団体だけで完結しない時間も拠点も人もシェアリングすると言う考え方、目からうろこだった。

第3分科会

今、子どもの姿！食・心・支援する立場から

場 所 高湯の里・子育て支援部門事務局（第3分科会会場）

司 会 佐藤由紀子

報告者 久間泰弘氏、八木沢典子氏、河野和義氏

1. 子育てをとりまく状況について

- ・久間泰弘氏（チャイルドラインふくしま）より
チャイルドラインの概要説明、2011年度の実施状況。実施から観えた子どもの声、今後の課題報告月5000超件の着信あり。内、会話成立は1000件。4000件の「子どもの声」に対応できていない。「子どもの声」には、震災によるストレス耐性の落ち込みが訴えられている。
- ・八木沢典子氏（NPO法人本宮いどばた会）より
食生活の見直し。玄米に含まれている栄養素について。そして、玄米食を広めたい。
黒豆煮、玄米の試食。調味料等を使わなくてもおいしい。
- ・河野知義氏（こども緊急サポートネットワークふくしま）より
福島の課題は震災復興にとらわれがちだが、日常的な子育て支援の依頼も多い。究極的に困るのは、「子どもが病気でも親は仕事を休めない。保育所・幼稚園と集団保育の為、病児は預からない」場合。それよりも、件数の上では、病児ではない預かりが多い。

2. ワークショップ（参加者からの声）

- ・チャイルドラインの活動を今回はじめて知りました
- ・子ども達がいかに心の悩みを持っているかを身に染みて感じました
- ・大人は、子どもの心の声をもっと聞いてほしい
- ・チャイルドラインの回線が少ない事を知りました。もっと増やして欲しい
- ・体について改めて考えます。玄米食べます。
- ・食育の話。人間にとて大切なことだと思います
- ・ニンジンジュース、早速つくってみたいと思います
- ・食の大切さ。人間形成の上で教養・知識ばかりではない
- ・素材本来の味がする黒豆煮、玄米おいしかった
- ・子育て支援は本当に大切です。これからもお手伝いしたい
- ・緊急サポートを使いやすくする為、利用料に公的補助が必要
- ・緊サポの事務所をもっと増やして欲しい。もっと広まって、親が頼りにするものになって欲しい



3. 「チャイルドライン」から観える、子どもの声と現状

〈ふくしまでは〉

現在は、福島県内に「チャイルドライン」への受話団体が「チャイルドラインこおりやま」週一回（水曜日）一回線しかないため、福島県内の子どもが全国統一ダイヤルに電話を掛けた場合、他の都道府県回

線に割り振られる。転送を受けた都道府県では、地元地域からの着信が優先される為、福島県の子どもからの着信率は20%以下と低い。（全国平均27%）

また東日本大震災・原発事故発生以後、福島県内の子ども達から他都道府県「チャイルドライン」への着信数が以前の3倍となり、相談数も全国平均の2倍となった。福島県内の子ども達からの電話は、岩手県、宮城県よりも相談時間は長くなっている、地震・津波・原発事故という災害の複合性が多分に影響しているものと思われる。

さらに、「チャイルドラインこおりやま」で週一回一回線のみの運営で月5000件超もの着信があった（平成24年8月）。しかし、会話成立は1000件程度に留まり、実に4000件余りの子ども達からの“声”には対応出来ていない現状がある。震災による子ども達のストレス耐性の落ち込みなどが訴えられる中、上記事情も踏まえ、福島県北地域でのチャイルドライン早期開設も急務となっている。

〈子どもの声〉

- ・私、お母さんに捨てられたの…ずっと前に、お父さんとお母さんが離婚して、私はお母さんと暮らしていたの。お母さんが新しい男の人のところに行くっていうから、私は、お父さんのところに行つてもいいって言ったの。お母さんのじゃまをしたくなかった…でも、イヤだ、お父さんの家には、私のいる場所はないの。お父さんは、迷惑だと思っていると思う。（中学生 女）
- ・避難所に入れた子は、いいよ。いろんなものもらってるんだ。うちなんか、2階が残ったから、家にいたんだけど、最初のころ電気も、ガスも、水もなくって、避難所に行ったら、おにぎり配ってたんだよ。ぼくも並んでもらったんだけど、「避難所が優先だよ」って、言われちゃった。その後からもいろんなものが配られていたけど、ぼくたちは何ももらえないんだ。家だってめちゃめちゃなのに…なんかへんだな、とおもって…
- ・父親が仕事をなくして、毎日両親がけんかばかりしている。自分も暴力を受けるようになった。仮設住宅なのでプライバシーがないのもつらい。家計がままならないで夢はあきらめた。今は学校に行きたくてしょうがない。これからのが不安。
- ・今、仮設に家族4人で住んでいるけど、狭くて息が詰まる。はじめは、家族が助かっただけでもよかつたって、思ったけど、こんな生活、いつまで続くんだろう。お父さんの会社も建物が流されて大変そうだし、高校行けるのかな…このごろ、夜よく眠れなくて、時々あのときのことを思い出すんだ。ほんとに地獄だよ、…
- ・埼玉の親戚の家に避難してきてるの。いやなことがあるんだ、「どこから来たの」って、毎日聞かれるの。言いたくないけど仕方がないから、「福島だ」って言うと、放射能うつるって言われたの。危ないから一緒に遊ぶなってお母さんが言ってるって。福島に帰りたいな、でも、だめだよね…
- ・原発はなくなりますか。報道も、原発を動かそうとしている大人も信用できない。電気と人とどちらが大切か、世の中の大人に聞きたい。

第4分科会 生と死 看取りの在宅ケア

場 所 高湯の里

司 会 牧田律子

報告者 佐藤かつ代氏、佐藤由紀子氏

超高年齢の看取り事例

報告者 佐藤由紀子

- ・100歳、98歳等超高年齢の看取り事例の発表 自宅での看取り
家族と医療関係者介護従事者との連携が重要 施設、病院等での看取り
家族の思いと施設側の方針のすりあわせが重要 現状では、家族の思いが医療関係施設側に伝えるのが難しい場合が多い



人生の最後をどう迎えるか

報告者 佐藤かつ代

人生の最後をどう迎えるか一人一人が考えていかなければならぬのでは。

参加者からの声

- ・自宅で母親を看取ったが病院だったら痛み、呼吸管理等で本人がもう少し楽だったのではないかと思っている。反対に病院で看取った方は自宅での看取りの方がもう少しおだやかに最後が迎えられたのではないかと悔いが残ると話された。
- ・ヘルパーが自分の関わった事例から訪問介護従事者は家庭での看取りを希望する家族に提供出来る豊富な情報を持つ必要があると痛感したとの話があった。

牧田律子プロフィール

平成7年4月 念願の看護師免許取得 栃木県立がんセンター勤務。ずっと看護師になりたかったのに、看護師に向いてないと痛感。
泣きながら、何とか5年間は勤務する。
平成12年 がんセンター退職 もう2度と看護師はしないと誓う。
結婚し横須賀に居住 夫のお給料の少なさに愕然とし、生活のため看護師をする。
平成12年 横須賀のクリニック勤務 → 在宅医療の必要性を知る
平成13年 クリニック退職

藤沢に転居

二人の子どもを産み、専業主婦としてすごす。

平成19年 ケアマネ免許取得 ナースケア湘南にケアマネおよび看護師として勤務

現在ナースケア勤務6年目…いままで、一番長いことに私自身驚いています。

いまは、在宅を支えることが私自身楽しいし、看護師を天職だと思っています。

生と死 看取りの在宅ケア

- ・家族全員の意識の統一
- ・医療関係者への依頼
- ・患者との対応の方向性

佐藤かつ代プロフィール

- ・福山市在住
- ・福山県立医科大学 附属病院看護師として約24年勤務
- ・現在、NPO法人まごころケアホーム 高湯の里 看護師

第5分科会 被災者支援活動とボランティア活動のあり方

場所 高湯の里

司会 安倍白造

報告者 高橋真一（NPO法人花見山を守る会代表）、熊谷君子（社福）典人会 地域貢献部長

- (1) 事故直後、被災地からの救援要請を受け、支援活動が始まった。
- (2) 被災者の引き込もり防止策として、NPOの活動での就労支援を展開中
- (3) 県外支援者を継続的に福島とつなぐ仕掛け、システムが議題
- (4) 災害時における社会福祉法人の役割の重要さと、効果的な活動
- (5) 県外支援者とのネットワークと連携の効用
- (6) 地域資源の再認識と評価
- (7) 地域の居場所の必要性（今後の取り組み）



- ・花見山の支援活動への感謝の言葉があった。
- ・支援活動の中で交わされた言葉（故意ではなく）に傷つくことが多い。
- ・被災者の重い苦しみ、悩みを聞いても、答えが出せないもどかしさがある。それを相談する窓口がほしい。
- ・常に自分たち（被災者）が、世間から忘れられるのではないか、という不安が消えない。
- ・自由に交流できる居場所は必要。

第6分科会 自分の始末・終活でよりよい生き方を考える

場所 高湯の里 懐古庵

司会 須齋美智子（NPO法人ライフ・アンド・エンディングセンター理事長）

報告者 荒井泰子（福島市介護員相談員保健助）、須田弘子（NPO法人まごころサービス福島センター理事長）

自分のしまつ 終活でよりよい生き方を考える

NPO法人ライフ・アンド・エンディングセンター 代表 須齋美智子

- ・書くことで自己管理、それは危機管理につながります

- ・書いて伝える大切なことは？
- ・高齢者を取り巻く医療の実態は 終末期医療について私の考え方
(過剰医療を避ける意思の表明)
- ・認知症と成年後見制度 私自身に判断能力がなくなったとき
- ・単身高齢者の増加と支える地域の力
(誰に何を頼むか、コミュニケーションの力)
- ・尊厳死とはどんな死でしょう 尊厳死の宣言書 尊厳死公正証書
- ・遺言は遺族間の争いを賢く避けるために贈る愛のメッセージ
(遺言を書くメリット)
- ・葬儀のこと 墓のこと
(葬儀にも墓にも選択肢があります 身の丈にあった葬儀をする)



伝え伝えられることで深まる「絆」

3.11の後で「絆」という言葉が再生の象徴のように言われてきました。このようなときに「絆」が声高に言わるのは何故でしょうか。振り返ると、長年日本の家族の形であった大家族が、高度成長期を迎えると、核家族が市民の標準のように言われるようになりました。しかし、その後の経済的な仕組みの中で、家族がそれぞれ生活の場を異にせざるを得ない状況が一般的になり、単身で暮らす人が増えました。また、放射線から逃れるために離れて暮らさざるを得ない家族や、津波によって離散した家族などがまだまだ平穏な暮らしを取り戻せない実情もあります。都会でも地方でも孤立する人びとが増え、老若を問わず「孤」に対する様々な施策が求められていますが、現状は個々の人にそれが及んでいるとは言えません。

私たちは自助・共助によって、努めて「孤」ではなく「個」と「個」が結びあい、繋ぎ合う「絆」を求めなければなりません。各人が繋ぎ合うには、それぞれの「おもい」や「のぞみ」を伝え合い共有することによって相互の理解を深め、それぞれに繋がるきっかけとする働きが必要です。どのように生きてどのように逝くかは一人ひとりの問題であり、家族の問題であり、繋がる人との問題です。自分の思いや願いを伝えるには、「書くこと」それが伝える人にも、伝えられる人にとっても確かに大事であり、必要です。

『もしもノート』は「もしもの時」に一人ひとりが、自分のことや思いを、家族や周囲の人に伝えるために書いておくように作りました。また、サブタイトルを「20歳から100歳までの危機管理」とし、自己管理をすることが危機管理につながるということを基本にして、内容に盛り込みました。ノートに記入されたことが実際に行われることになったとき、託された人にとって必要なのは「すぐに使える情報」です。自分のためにも託された人にも、知らされる情報は新しい方が良いことは言うまでもありません。

これまで利用された方々からのご意見では、身辺の変化が多い高齢期では、できるならば2年くらいで書き換えたほうが良いということです。『もしもノート』は、皆さまの声に従って表紙に [No] をつけ、次のノートへの転記がしやすいように作成しております。

もしもノートに書いておくこと

もしもノートを手にしても、なかなか記入できないままに、日が過ぎているという方もあるようですが、「もしも」に備えるためには、緊急時に必要な部分はできるだけ早く記入しておかなければなりません。

「書いたことが思いがけず役立った」。できればそんな場面はあって欲しくはありませんが、「もしも」は誰にでもあることですから、世話になる家族や周囲の人のためにも、まず書いておきたいものです。

次のように順位をつけて書くのもよいのではないかでしょうか。

1. どんな時にも自分にとって絶対欠くことができないことは？
2. 家族や周囲の人にどうしても伝えたいことは？
3. 記録として残したいことは？

終末期医療について私の考え方

終末期には自分の意志を表明できない状態にあることが多いものです。

医療についての知識を深め、自分に役立つ質のよい情報が得られるようにしたいものです。少しでも長く生きていきたい。でも、働きを止めた身体（臓器）にむち打つような過剰医療がはたして良いのか考えてみましょう。

私自身に判断能力がなくなったとき

任意成年後見制度や支援が得られる組織、団体などについて視野を広げ調べておき必要に備えておきましょう。年をとると自分自信で判断能力がなくなったと自覚するのは難しいようです。

尊厳死の宣言書

最近終末期医療や尊厳死についての意識が高まっています。

死から目をそむけるのではなく、自分の死について安穏に死を迎える姿をイメージすること。それを文書にしておくことが、自分らしい尊厳ある死を迎えるためには必須です。

遺言は遺族間の争いを賢く避けるためにおくる愛のメッセージ

遺言は法に優先して自分自身の遺志を実現するには不可欠です。

愛の証、自分亡き後受遺者の幸せを願って書くそれが遺言です。

ごく一般的な家庭で裁判に持ち込まれるケースが増えています。残すものはないと決めつけず、法的にも不備のない遺言書の作成を考えてみてはいかがでしょうか。

葬儀のこと

ここ数年の間に葬送についての意識が大きく変わりました。死者を「物」としてとらえる人も出てきました。死者を弔うという行為は、人間のみのもつ高い精神性を表すものといわれます。

戦後の長い期間「死」は隠蔽されてきました。経済華やかな時代に密かに準備するものとして、葬儀は葬儀業者が専らとするものになり、華美に走り形骸化しました。

バブルが崩壊し、今日では葬儀は家族葬、直葬などが主流になるなど次第に変わってきました。大災害を経た今、これまでより「死」を見つめ、葬送のあり方を考える人の数が多くなりました。

葬送のあり方はこれからも変化するものと思われますが、死者への畏敬の思いを込め、残された人の悲嘆を慰め、「それぞれの人がそれぞれに相応しく死者を送る」葬送のかたちを、文化として次代に伝えられるようにしたいものです。

墓のこと

遺骨の葬り方も変わりました。墓というと家墓という時代から納骨堂、合祀墓、樹木葬、散骨などいくつもの選択肢がある時代になりました。

少子高齢時代を迎え、墓を継承する者がいない高齢者が増加しました。今後は単身者、生涯単身者が多くなる方向です。従来の菩提寺、家墓、長子継承という墓のシステムが時代に合わなくなっています。

今後の課題として、間もなくやってくるであろう超高齢社会にむけて、継承する者がないことを前提とした墓を考えておかなくてはなりません。

樹木葬（里山葬）

LECでは市民活動として「里山ベリートラスト」（里山保全埋葬預託事業）を推進しています。この活動は、「里山葬墓地」をつくり里山を活用するとともに、その保全、再生をそこからの収益によって実現することをめざすものです。未来の子ども達のために、都市周辺に僅かに残された里山を残すことを可能にする事業だと考えています。

近郊に土地を求め、各方面の理解と協力を願って実現出来るよう、今後もこの事業を進めていきたいと思います。



福島介護福祉専門学校ボランティア



NPO法人屋島やすらぎ設立10周年記念講演 「3・11東日本大震災に学ぶこと」

NPO法人 まごころサービス塩釜センター
理事長 坂井 正義

平成7年 日ケア「まごころサービス塩釜センター」発足
平成13年 特定非営利活動法人の認証を受ける
平成14年 介護保険事業開始
平成19年 NPO法人移動サービスネットワークみやぎ理事長就任



今回の記念講演にあたり、私たちの仲間である塩釜センターの坂井センター長にお願いしました。私たちがあの日以来、東北に仲間が多いこともありとても心を痛め、いろいろな方法で支援してきました。2年がたちややもすると忘れられそうな東北大震災をもう一度振り返り、近い将来起こるであろう南海大地震に備えられるよう、生の声を聴きたいと思いました。遠路はるばる宮城県よりお忙しい中お越しいただきました。

まず30分くらい、たまたまビデオで撮ったという塩釜市の津波の様子を映像で見せていただきました。改めて大津波の脅威をみせつけられました。坂井さん自身、チリ地震、宮城県沖地震を体験されていますがこんな長い時間の地震はじめてだつたにも関わらず、デイサービス

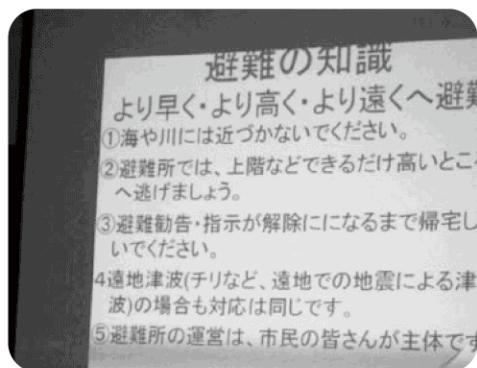
海岸付近で地震がきたら、とにかくすぐに逃げる、「より早く、より高く、より遠く」を頭に入れておいてください。ここは瀬戸内海で津波はこないかも

されませんが、鉄筋3階以上に避難すること。よく避難場所が公立の小、中学校になつていますが、一度校庭に集まり、体育馆解放後そこに避難となつていますが、津波の場合は早く校舎を開放してもらい、上階への避難が優先です。

スの利用者さん、職員のみなさん、ご家族に大きな被害にあわれた方がいなかつたそうです。以下、講演内容を抜粋しました。

・ 常に飲んでいる薬
・ 小銭
・ 携帯用ラジオ
・ 飲料水
・ 懐中電灯

特にラジオは、情報を得るために大事です。避難先や被災直後で、集団のなかにいると、集団心理が働き、デマや風潮に流されてしまいますので、正確な情報を把握するためお勧めします。予備の電池も備えてください。停電でテレビが見れないの



でラジオからの情報しか入ってきません。みなさんはテレビ等で情報を得たとおもいますが、私たちが津波の様子を見たのは震災後1週間が過ぎてからです。

MAGOKORO 「3・11東日本大震災に学ぶこと」

普段から、生活圏内でどこに逃げればいいかを確認しましょう。

今回は津波ばかりが大きく取り上げられていますが市街地や山間部では地震の被害も大きなものでした。家具や食器棚が倒れ中身が飛び出したり、ドア付近の物がたおれ避難の障害になつたり、ブロック塀が倒れ道をふさいだりと常日頃から住宅の耐震化、家具の固定なども被害を最小にする対策の一つです。

次に震災後のことですが、食料品や日用品を買い求め営業しているスーパーに人があふれました。また、ガソリンが足りなくなりガソリンスタンドに長い列ができました。コンビナートやタンクローリーも被災しガソリンが無くなつたわけですからひとり10㍑のガソリンしか売ってくれません。私は



は透析や受診の患者さんを病院までお連れしないといけないのでも特にガソリンをわけてくれよう塩竈市にお願いしました。全国移動ネットワークをとうしてガソリンを調達してもらいました。

避難所も悲惨なものです。子どもや高齢者がいると周りに気をつかわないといけない、衛生面での問題も発生します。感染症が流行したりとせつかく津波や地震で命が助かつても二次災害にあって命を落とすひともいました。

「自宅内避難所」を勧めます。自宅が危険でないことを確認したら自宅に戻り、あらかじめ備えている備蓄品を利用して自宅にて避難生活をおくること



です。携帯ラジオ、飲料水、食料品、カセットコンロなど用意しておくことです。
私の所は近くに公営住宅があり、屋上タンクから水を分けてもらったり、旧塩竈貯水池から流れている水をもらって水洗トイレや洗い水にしまして本当に助かりました。

最後におさらいとして、
・自分が避難する場所を知つており、家族等と確認しておること。

・避難場所へ行く手段と経路を決めており、実際に行ってみて確認しておくこと。

・災害時に情報を入手する手段が複数あり、実際に入手できるか確認してておくことが大切であると話されました。

大変な経験をされた坂井さん、東北弁でやさしく語ってくださいました。

ありがとうございました。



猪塚代表の挨拶



今年は屋島やすらぎがNPO法人の認証を受け早10周年を迎えることができました、これもひとえに会員の皆さん、地域の人々、日々ケアの各センターの支援があつたからと心から感謝いたします。

屋島やすらぎは東部オープンハウスから香川県老人福祉問題研究会いわゆる香老研屋島やすらぎとして、まこころサービスの啓蒙、ミニデイサービス、JAバザー等資金のない時代にすべてボランティア活動から始まりました。

先輩方の活動があつたから今日のやすらぎがあるわけです。

その後NPO法人として介護保

険事業にも参入し今日にいたつております。

介護保険制度が混沌とする中、私たちは「愛、技術、忍耐」の精神の下、まごころサービスをつらぬいてまいりたいと思つております。

今後ともご支援の程よろしくお願いします。屋島やすらぎに貢献した十一人に感謝状と記念品が贈呈されました。

表彰者

矢野 知子	大社 美津子
小川 京子	岡崎 美代子
太田 智恵子	神田 光代
田村 和佐子	西部 由利子
力石 祥子	広山 紀代

NPO法人屋島やすらぎ創立十周年を皆様と一緒に祝いできましたことを大変嬉しく思つております。記念行事にあたつて十一名の元ヘルパー達（現役も含む）が表彰という栄誉を授かりましたこと、有難うございます。

振り返つてみると、特別なことをしたわけでもなく大変恐縮な思いで一杯です。ただ、誇りに思つて良いことは、我々の拙い小さな礎があつてこそ今に



部オープンハウス”を立ち上げた3年前のお話をいただき感慨深いものがありました。先輩方々の人に対する思いやりの心を忘れず日ケアの理念である「愛、忍耐、技術」を忘れず次世代の若人に受け継いでもらい、これからも屋島やすらぎのますますの成育を応援します。皆さんと共に進んで行こうと力強いメッセージでした。



ご利用ください。

● E-mail (電子メール) ●



magokoro@hyper.ocn.ne.jp

● URL (ホームページ) ●



<http://www.jp-care.gr.jp>

MAGOKORO 「3・11東日本大震災に学ぶこと」

記念講演を聴いて 荒井恭子

久し振りに大石邦子さんのお話を聞くことが出来ました。前にお聞きした時と同じでお変わりない様子に安心しました。また大石さんの特徴のある語り口は、坦々としながらも感動に満ち溢れるものでした。事故に遭い入院中の夜桜のお話はいつも涙がでてしまいます。その後も大変な病気をされたこと、お母様を見送られたこと、同年代の私としては、共感出来ることが多々あり、人生とは人それぞれに春夏秋冬がめぐるものなのだと感じました。

人は大変な不幸を乗り越えた人の言葉は、何ものにもかえられずに尊い言葉として心に響きます。大石さんのお話は、震災に合わせた人にも、介護をしている人にも、胸に心に響いたことと思います。そして勇気と元気を貢献した講演会でした。

ありがとうございました。



福島民友 第39119号(日刊) 2013年5月20日(月曜日)



福島民報 3号(日刊)
2013年5月19日(日曜日)



福島民報 3号(日刊)
2013年5月19日(日曜日)

を前に、「老いを考える年
齢になった時、できるだけ
楽しく生きようと思った」
振り返りながら講演した。
大会では記念講演のほか、高齢者・障がい者支援、
多世代交流、被災者支援、
ボランティアなどテーマご
との分科会が開かれた。

日本ケアシステム協会 研修旅行

平成25年5月19日(日)～平成25年5月20日(月)

目次	月日(曜)	行 程	宿 泊 先
1	5月19日(日)	花月グランドホテル → 磐梯吾妻スカイライン → 浄土平(昼食) → 会津若松市内 12:10発 鶴ヶ城 → 八重の桜 大河ドラマ館 → 会津藩校日新館 14:00着 猪苗代湖畔 みなどや交流 17:30着	ホテルみなどや (交流・宿泊)
2	5月20日(月)	ホテルみなどや → 天鏡閣 → 旧高松宮翁島別館 → 南ヶ丘牧場 → 野口英 8:00発 世紀記念館 → 猪苗代湖磐梯高原IC → JR郡山駅 11:40 12:40着	

<p>介護保険業務の 様々なご要望にお答えします</p>	<p>はじめまして まいとうんメール便 です</p> <p>高松メールセンターからのご案内</p> <p>メール便… ハガキ 封書 カタログ など</p> <p>激安価格で 配達します</p> <p>お問い合わせは 四国メールネットワーク協同組合 (有)タウンネット 高松メールセンター</p> <p>高松市朝日町4丁目10番60号 TEL:087-813-0426 FAX:087-813-0436 E-mail takamatsu@carol.ocn.ne.jp http://www.shikoku-mp.com/</p>	<p>www.sanuki-taberu.net</p> <p>株式会社 ウエイ企画 〒760-0062香川県高松市塩上町7-2 TEL:087-837-1159 FAX:087-897-3007 コーポレートサイト http://www.network-way.com</p>
<p>あいおいニッセイ同和損保代理店</p>	<p>カウネット(kaunet)代理店</p>	<p>総合印刷・イベント事業・マニュアル制作 デジタルコンテンツ企画制作</p>
<p>(有)フリーエージェント 八田 和忠</p> <p>*損保・生保・社会保険労務士* 扱っています。</p> <p>高松市伏石町 2028-2 TEL 087-816-8123 FAX 087-815-1171</p>	<p>(有)田所商店</p> <p>OA機器・スチール製品・紙文房具等 ☆少量から承ります。</p> <p>高松市古馬場町 2-13 TEL 087-821-7515 FAX 087-821-2774</p>	<p>株式会社 高松 東京</p> <p>成光社</p> <p>〒760-0065 高松市朝日町5-14-2 TEL:087-823-0222 FAX:087-823-0211 www.seiko-sha.co.jp</p>
<p>介護に関する リフォームなら</p>	<p>香川銀行は平成25年2月1日、創立70周年を迎えます。</p>	<p>消防設備土の店</p>
<p>(有)住まいのデザイン ただ</p> <p>2000件を超える豊富な工事実績と信頼で 安全で安心できるリフォームを ご提案いたします。</p> <p>TEL 087-863-7215 高松市木太町3区2067番地</p>	<p>香川銀行</p> <p>トモニホールディングス</p>	<p>四国防災設備 有限会社</p> <p>消防設備保守点検</p> <p>〒761-0612 香川県木田郡三木町氷上1833-6番地 TEL(087)898-3913 FAX(087)898-8801</p>
<p>編集後記</p> <p>「第21回全国大会inふくしま」も、無事に終わり、およそ2ヶ月が過ぎました。皆様には、お元気でお過ごのことと存じます。編集に当たり、福島県下4センター及び各センターの皆様方には、原稿等大変ご迷惑をおかけ致しました事を、お詫びするとともに、すばらしい大会を開催していただきました事を、心から感謝いたしております。</p> <p>間もなく梅雨が明けると日差しが厳しくなり、熱中症・食中毒が気にかかる季節になります。皆様にはお元気で、この夏を乗り切られますように。</p>	<p>四国中央医療福祉総合学院</p> <p>愛媛県四国中央市中之町1684-10 TEL(0896)24-1000 FAX(0896)24-1007</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理学療法学科(3年制) ●作業療法学科(3年制) ●言語聴覚学科(3年制) ●介護福祉学科(2年制) ★看護学科(3年制) 平成26年4月開校準備中 ●社会福祉学科(通信:1年8月) ●精神保健福祉学科(通信:9月/1年8月) ★ケアマネ試験対策講座&社会福祉士・精神保健福祉士 <p>国試対策講座・介護技術講習会受付中!!</p> <p>詳しくは http://www.rwf.ac.jp をご覧ください。</p>	<p>剣道具・柔道衣・居合刀・空手衣 (販売修理)</p> <p>(有)武道具店</p> <p>鳴瀬</p> <p>高松市高松町1978番地 TEL(087)841-3615 FAX(087)841-7755</p>

全国まごころケアネット
特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会
まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokolo@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jmss@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
まごころケア仙台 はなまる広場	〒983-0824 宮城県仙台市宮城野区鶴ヶ谷3丁目4-11	finamo_1_s@yahoo.co.jp	022-253-2627	022-253-2627
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂宇南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス しみずセンター	〒960-8253 福島県福島市泉字清水内3		024-557-3380	024-557-3380
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0903 福島県二本松市根崎1-9	kuwabara.masaaki@ivory.plala.or.jp	0243-22-0112	0243-22-0112
まごころケア国見	〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字南54-2	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア千葉	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-23-15 グランドツール第2 107号		043-274-9711	043-274-9718
まごころケアひまわり	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1丁目21-21		043-275-1872	043-275-1872
まごころケア横芝	〒289-1738 千葉県山武郡横芝光町鳥喰上2283		0479-82-1762	0479-82-1835
まごころケア桑員	〒511-0233 三重県員弁郡東員町城山3-7-8		0594-76-8734	0594-76-8734
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川144番地	sqkg13630@leto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころケア神戸 なんきんまめ	〒651-2311 兵庫県神戸市西区神出町東1188-348	nankinmame@gol.com	078-965-3424	078-965-3428
まごころケア加古川	〒675-0062 兵庫県加古川市加古川町美乃利409-28	tera1954-masa@beige.plala.or.jp	0794-24-9150	0794-24-9150
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@h9.dion.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	ajisai@eagle.ocn.ne.jp	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	ma11ka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアはぴねす・ まんのう	〒766-0021 香川県仲多度郡まんのう町大字四條615-4		0877-75-4322	0877-75-4343
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころサービス 徳島センター	〒770-0923 徳島県徳島市大道3丁目22-1	magokoro@coral.plala.jp	088-624-6578	088-624-6585
まごころケア ぱっかぽか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	tani280610@yahoo.co.jp	0896-56-2623	0896-56-2623

「日本ケアシステム協会」会報

平成25年7月25日 発行No.124

発 行 所 〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL 087-815-0771 FAX 087-815-0773
 編集発行人 兼間 道子
 郵 便 振 替 口座番号 01610-0-92689
 印 刷 所 (株)成光社